

# ふかまのまじ

第一四六号 〇六年 七月一日  
発行元 深町町内会連合会  
連絡所 六三三三八二



## 町内会連合会活動報告

### 市民ゲートボール大会

上組 幸谷 満夫

六月十八日、三原運動公園にて第二回ゲートボール大会が有りました。  
深尚寿会チームも参加致しましたが、相手チームは昨年優勝致した本郷東チーム、二二対九で負け、二回目は久井チームと対戦致しました。これ又優勝チームに匹敵する強いチームで、二五対一〇で負けました。  
大変良い勉強になりました。各チーム共選りぬきの選手ばかりで、中々ついて行く事が出来ません。

### 歩く会への参加を

健康づくり推進員会  
高崎 修



六月十日の第一回行事は、四人が参加して城山へ登り、石原氏の墓地にも参りました。  
第二回行事は、上組の滝めぐりとなります。七月十五日(土)町民会館八時出発、上組公民館經由で立石八時四五分集合、途中の方は順次合流して下さい。  
立石一高平ダム―桜滝―彭祖の滝 九時半頃到着予定。十時から帰途につき、昼前に町民会館で解散の予定。  
中世山陽道の深山幽谷の秀麗気を感じ、名水を汲んで帰りましょう。

### 深小だより

深小学校長 敷本幸子

### 三原市防火優良校として表彰される



五月二十四日(水)に三原市中央公民館で深小学校が防火優良校として表彰を受けました。  
本校はこれまで意識を高めるための避難訓練や心肺蘇生法など毎年行ってきました。そういった地道な取り組みがいざというときには役立つものと思えます。今後も避難訓練や心肺蘇生法などの取り組みを継続していきたいと思えます。

### 一中だより

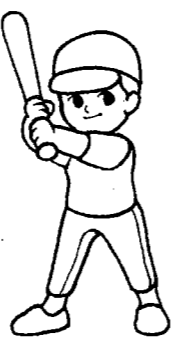
三原市立第二中学校  
校長 片山 幹夫

今年度より二中に参りました片山です。よろしくお願ひします。私は毎日、深町をお通つておりますが、緑豊かな山ふところに囲まれた家並み、よく手入れされた田畑に整然と植えられた稲列、その成長を日々感じながらの「深路」から、元氣と安らぎをもらっています。  
私は、生徒が、学習にかぎらず、緊張感をもって意欲的な中学生を送ってくれるために、「安心して学べる学校」「一生懸命がすばらしい」という価値観を注いでいきたいと思つています。生徒も、それに応えてくれるだけの素直さを意欲をもっていると感じています。  
今、生徒たちは、「市内で一番あじさいの学校」を目標に、生徒会執行部の提案のもと、全員で「あじさい運動」を展開してまいります。私も、お互いの明るくさわやかなあじさいは当然のこととして、来校者には「立ちどまって相手を見て笑顔であいさつ」ができるよう求めていきます。

### ソフトボールだより

子ども会会長 小川和彦

厳しい暑さの中、ソフトボール・キックベースボールの子ども達は汗と土にまみれ練習や試合に、がんばっています。応援よろしくお願ひします。



〇ソフトボールの結果  
三原リーグ(六月十一日)  
深町7-1 宗郷 ▲▲  
深町2-1 須波 ▲▲

### 電波教室本校において実施される

五月三十日(火)に総務省中国総合通信局主催により「親子わくわく電波教室」が本校におきまして開催されました。五・六年児童二十二名と保護者十三名が参加しました。  
電波利用にはルールがあることを学んだあと実際にラジオコントロールカーを組立て混信妨害体験をいたしました。  
親子の会話がラジオコンカーの組立を通してできたのではないでしょうか。

わけても深町は、地縁的な昔ながらの人のつながりが、残っている所とお聞きしました。どの中学生も、顔見しりのことと申します。どうか、学校の行き帰りに声をかけてやっていただ「策」にもなると思えます。どうかよろしくお願ひします。▲▲



### 俳句リライト

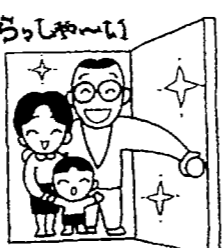
第二中学校三年生の国語で俳句を自分の言葉で書き換える「俳句リライト」を学習しました。題材の俳句は「春風や闊志いただいて丘に立つ 高浜虚子」です。

僕は、今、丘の上に立って強い向かい風を受けている。「絶対に負けない」と胸のうちに闘う意志を持って。

春一番が吹いている。僕の胸のうちに、隠れている。強いの気持ちは、持っている。そして、丘の上に立って胸を張っている。さあ、今日もがんばる。村井洗太

穏やかな春風が吹く。ぼくは立ち向かう意志を持って丘に立っている。河原 光

### タイ留学生 短期受入れ家庭を募集



深町の皆様、タイ留学生との料理作りでは、大変お世話になりました。七名いたタイからの留学生も五名が帰国し、現在は、一年間本校で学習することになっている二名の留学生(留学生名、ピース・シナム)が前川寮から通学しながら、学んでいます。  
この二名に日本の文化を体験させるため、短期間(二三日)でも可能です。彼女達を受け入れていたただけの家庭を探していません。関心のあるご家庭がありましたら、左記までご連絡ください。

連絡先 如水館高等学校  
企画課 信清光弘・藤井朱美  
電話 6312423 ▲▲

### 深町各種団体七月行事予定

- ◆町内会連合会
  - ▼市民グラウンドゴルフ大会 九日
- ◆小学校・幼稚園
  - ▼二実習生来校 六日
  - ▼英語活動・集金日
  - ▼諸雑費集金・誕生会 七日
  - ▼廃品回収 九日
  - ▼貯金日
  - ▼保健指導・体重測定 十日
  - ▼保健実習生受け入れ 十一、十三日
  - ▼びよびよハウス 十四日
  - ▼個人懇談 十九日
  - ▼終業式・学期末懇談会 二〇日
  - ▼登園日 二五日
  - ▼水泳記録会 二六日
- ◆如水館中学・高校
  - ▼期末試験 三、六日
  - ▼オープンスクール 九日
  - ▼オープンスクール 九日
  - ▼終業式 十七日
  - ▼終業式 二二日

### 展望席

日本では脳死による臓器移植はあまり進んでいないので、臓器移植法を改正して、より容易に臓器移植が行われるよううにする動きがあるようです。ところで、私の知り合いの住職(三次市吉舎町の檀上宗謙さん)からこんな話を聞きました。  
「今から四十数年前の六歳のとき、ふぐ中毒により昏睡、植物人間状態となり、髄液も濁り九九、九%助からないと思われていた。そのような状況で、西洋医学から東洋医学の治療を行ったこともあつてか、一年後、目が開き、かすかに光を感じるようになった。その後治療を続けて四年後に全快した。  
植物人間状態であったときは、医学的にも意識不明とされていたが、私自身は夢うつ状態であった。今だったら臓器移植で殺されていたらかもしれない。」  
病気が脳死による臓器移植以外では助からないと言われたら、本当に必死の思いで臓器移植に全力をあげると思えます。病気の本人や家族の心労は察するに余りあるものがあります。  
しかし、私には医学的なことはわかりませんが、脳死と判定された人もこの住職のような状態かもしれないと。そして必死で生きようとしていたかもしれない。誰からも奪われてはならない。誰も奪ってはならない。かけがいのない命です。それなのに、もの言わぬ人(脳死)の命が軽視されているような気がしなくす。願わくば、臓器移植を、発展を切に望みます。

